

福祉サービス第三者評価 評価結果

【保育所】

ろりぽっぷ邑横浜

横浜市青葉区美しが丘 2-12-1

運営主体：株式会社 栄光

実施概要	1 ページ
総合評価（評価結果についての講評）	2～3 ページ
評価領域ごとの特記事項	4 ページ
分類別評価結果	5～14 ページ
利用者家族アンケート分析・集計結果	15～22 ページ
利用者本人調査分析	23～25 ページ
事業者コメント	26 ページ

2010年1月29日 公表

実施機関：特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

実施概要

事業所名	ろりぼっぷ邑横浜（保育所）	
報告書作成日	2010年1月29日	評価に要した期間 6ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま	

評価方法

<p>1、自己評価</p> <p>実施期間 2009年8月2日～10月2日</p>	<p>職員会議で趣旨を説明した後、09年8月、評価機関から第三者評価の説明を受け、再度趣旨や内容を確認した。</p> <p>各職員が個人で、自己評価票を記入した。</p> <p>各個人が記入したものを、クラスごとに集まり、意見交換しながら、1項目ずつ確認し、まとめた。</p> <p>最後に、全体を園長・主任でまとめ、職員に周知した。</p>
<p>2、利用者家族アンケート調査</p> <p>実施期間 2009年9月14日～27日</p>	<p>全園児の保護者（87家族）に対して、保育園側からアンケート用紙を手渡して配付した。</p> <p>各保護者より、返信用封筒で、評価機関にあてて無記名で返送してもらった。</p>
<p>3、訪問実地調査</p> <p>実施日 第1日:2009年11月9日 第2日:11月19日</p>	<p>[第1日]</p> <p>午前：各クラスで保育観察。</p> <p>昼食：幼児クラスで園児と一緒に食べながら、保育観察。</p> <p>午後：書類調査。園長・主任に面接調査。</p> <p>[第2日]</p> <p>午前：朝は登園の様子を観察。その後、各クラスで保育観察。</p> <p>昼食：幼児クラスで園児と一緒に食べながら、保育観察。</p> <p>午後：各クラス担任保育士6名、栄養士1名、非常勤職員1名、英語担当職員1名に個別に面接調査。</p> <p>その後、園長・主任に面接調査。</p> <p>最後に意見交換を行い、終了。</p>
<p>4、利用者本人調査</p> <p>実施日 第1日:2009年11月9日 第2日:11月19日</p>	<p>観察調査は、調査員が各クラスに分かれて実施し、戸外・園外での活動も観察した。</p> <p>幼児を中心に、観察調査や昼食で同席した際に、会話の中で適宜聞き取りを実施した。</p>

総合評価（評価結果についての講評）

【施設の概要】

「ろりぽっぷ邑横浜」は、東急田園都市線「たまプラーザ」駅から、徒歩約7分の住宅地の中にあり、2005年（平成17年）4月、株式会社栄光により開設された保育園です。園舎は、鉄筋コンクリート造り6階建てマンションの1階にあります。すぐ近くに美しが丘公園があるほか、近隣には多くの公園があり、子どもたちの良い遊び場になっています。

定員は90名（0～5歳児・産休明け保育あり）で、開園時間は、平日7時～20時30分、土曜日7時30分～19時です。

保育目標として、次の5つを掲げています。

元気でよく遊ぶ子ども（生きる力）

よく見、よく聞き、よく考える子ども（言語・思考力）

よくつくりだし、よくあらかわす子ども（創造・表現力）

思いやりと愛情豊かな子ども（自然との共生・連帯）

正しいことに向って協力する子ども（自立・判断・行動力）

高く評価できる点

1、子どもたちは、元気に遊びながら、さまざまなことを学んでいます。

子どもたちは、晴れた日にはほとんど、近隣の公園に出かけます。遊びの前に、保育士は「皆でやる？自由遊びにする？」など問いかけながら、子どもたちの思いを尊重しています。鬼ごっこでは、斜面を登り降りしたり、木の間をくぐり抜けたり、思いっきり身体を動かしています。また、落ち葉やどんぐりなどを拾ったり、虫を探したり、拾った落ち葉をクッキーに見立てて料理しているグループもいます。「小さい子どもを連れの方や、お年寄りの方がいるので、ぶつかったり、迷惑をかけないように」という約束事を守りながら子どもたちは自由に遊んでいます。

室内活動のお絵描きや造形などでも、子どもの思いをできるだけ取り入れています。例えば、一人の子どもが絵本の中で、牛乳パックを使った紙すきを見つけたのをきっかけに、皆で紙すきに取り組んで葉書きをつくり、勤労感謝の日に保護者へ贈る感謝の手紙に使っています。

給食の時に“3色食品群”を“赤レンジャー、緑レンジャー、黄レンジャー”と称して、献立中の食材が何レンジャーなのかを当てっこしたり、園庭で栽培・収穫した野菜をクッキングの時間に調理したりするなど、子どもたちは食事およびその過程（調理・配膳・片づけ）などにも関心を持っています。食後の歯磨きでは、一人の子どもが「はみがき先生」として皆の前に出て、誇らしげにお手本を示す場面などが見られ、遊び感覚の中で、子どもたちは良い生活習慣を身につけています。

全クラスで週1回程度、外国人の先生による英語遊びの時間があり、絵・文字・数字などを書いたカードやジグソーパズルなどを用いて遊びながら、子どもたちは英語に親しんでいます。遊びの中で、出身国や他の国の習慣・文化を伝えることもあり、さまざまな人がいることを子どもたちは知っています。

また、4・5歳児が合同で歌遊びをしたり、3・4・5歳児と一緒に遊ぶコーナー遊びの日があったり、異年齢児どうしが関わりを持ち、園生活を楽しんでいます。さらに、日常的にも、4・5歳児は自主的に1、2歳児の世話をしに行くなど、思いやりの心が生まれています。

2、職員は、より良い保育を目指し、子どもたちに接しています。

職員会議・クラス会議などで、保育方針の「保育者は子ども一人ひとりのあるがままを受け入れ、“やさしくあたたかく”の姿勢で接する。安心できる保育士の見守りの中で、子どもが安心感をもって遊んだり生活できるようにする。」を実現するにはどうすれば良いかを常に議論・検討し、より良い保育を目指しています。

日常の保育の振り返りのほかに、例えば、運動会・お楽しみ会・誕生会などの行事は、恒例のイベントとしてのみ捉えるのではなく、保育方針に基づくものであることを必ず確認し、事前に目的・目標を決め、担当者が詳細な計画を立てています。園長・主任は、できるだけ職員の考えを尊重する方針であり、新しい企画も多く取り入れられていて、誕生会などで、職員がさまざまな国の民族衣装を着て子どもたちに披露したり、合同で楽器演奏をしたり、自分の得意技を見せたり、職員がお互いにアイデアを出し合っています。子どもたちに楽しんでもらうと同時に、職員自身も楽しみながら行っていることが、高いモチベーションを維持することにもつながっています。

また、会議などでは、職員は自分の考えや提案を自由に述べることができるので、職員同士でお互いの考えを良く知り合う機会ともなっています。会議の場だけでなく、お互いに気づいたことを率直に言い合える良い雰囲気があり、職員間の連携の良さにつながっています。

改善や工夫が望まれる点

1、人材育成の工夫

職員の資質向上のため、年2回、園長が非常勤職員も含む全職員と面談し、目標設定とその達成度評価を行っています。今後、人材育成計画を作成し、その中に経験年数や習熟度に応じた期待水準を明文化すると、職員が何を自分の目標設定とすれば良いかが分かりやすくなり、より効果的な取り組みとなることが期待されます。

また、園内研修や自主研修（スキップの会・有志が参加）が行われ、市・区などで実施する外部研修にも多くの職員が参加しています。しかし、非常勤職員の参加はほとんど無いので、園内・園外の研修に非常勤職員も参加できるように配慮することが望まれます。

2、地域との連携

地域への子育て支援として一時保育は行っていますが、園庭や部屋の広さに余裕がないなどの理由で、園庭開放や育児相談は行っていません。園としても子育て支援ニーズがあることは把握し、必要性を認識しているので、近隣の公園を利用した親子で遊ぶ会など、できるところから始めることが期待されます。

また、子どもたちは、近隣の小学校へ訪問したり、町内会の夏祭りの飾り付けに参加したり、近所の商店で買物をするなど、さまざまな形で地域との交流をしていますが、園として、地元の町内会・自治会・老人会などとの連携を、さらに図って行くことが望まれます。

評価領域ごとの特記事項

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構が定めた「評価領域」に則って、記載しています。

1、人権の尊重

- ・保育理念として、「子どもの人権や主体性を尊重する」「子どもの最善の利益のために児童の福祉を積極的に増進する」などを掲げ、利用者本人を尊重したもとなっています。
- ・子どもに対して威圧的な言葉遣い、無視が行われないよう、常に、職員間で注意しあっています。

2、意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ・一斉活動は、保育士主導の遊びではなく、子どもたちの思いを大切に、子どもの発想を集団活動に取り入れています。
- ・公園での遊びでは、斜面の登り降りなど、自然の傾斜等を生かした活動を取り入れ、子どもの発達段階に応じて、運動能力を高められるような遊びの環境を意識しています。
- ・バイキングを取り入れたり、「3色食品群」を「赤レンジャー・青レンジャー・黄レンジャー」として子どもたちにも分かるように工夫したり、子どもたちが食事およびその過程(調理・配膳・片付けなど)に関心を持つように工夫しています。

3、サービスマネジメントシステムの確立

- ・保育課程の作成にあたっては、マンションが密集する新興住宅地で、保護者は比較的若い世帯が多く、教育的関心が高いことや、近隣に多くの公園があることなどを考慮しています。
- ・保育課程に基づき、年齢ごとに、年間指導計画、月間指導計画、週案を作成しています。
- ・特に配慮を要する子どもや、障がいのある子どもを積極的に受け入れています。また、保護者の同意を得て、地域療育センターあおば・区福祉保健センターなどから情報や助言を得ています。
- ・苦情解決体制について、その内容をフローチャート形式で簡潔に表したものを入園のしおりに記載し、園内にも掲示しています。
- ・健康管理・感染症等への対応・衛生管理・安全管理・不審者対応などのマニュアルを作成しています。
- ・園だよりやクラスだよりを定期的に発行しています。また、「パパママ先生」と称して、保護者が保育参加する機会を設けています。

4、地域との交流・連携

- ・子育て支援として、一時保育を行っています。
- ・園庭や部屋に余裕がないなどの理由で、園庭開放や育児相談は行っていません。園としても子育て支援ニーズがあることは把握し、必要性を認識しているので、近隣の公園を利用するの親子で遊ぶ会など、できるところから始めることが期待されます。
- ・子どもたちは、さまざまな形で地域との交流をしていますが、園として、地元の町内会・自治会・老人会などとの連携を、さらに図って行くことが望まれます。

5、運営上の透明性の確保と継続性

- ・「全国保育士会倫理要綱」を全職員に配布し、周知しています。
- ・職員会議などのさまざまな機会に、保育方針である「保育者は子ども一人ひとりのあるがままを受け入れ、“やさしくあたたかく”の姿勢で接する」「子どもと保護者そして保育者も共に育ちあう“共育”を目指していく」などを掲げ、その中身について議論を重ね、職員の理解を深めるようにしています。
- ・2006年(平成18年)に、5年間の中期計画を定めています。

6、職員の資質向上の促進

- ・園内研修や、市・区主催の研修に職員が参加し、自主研修(スキップの会)もあり、職員の資質の向上に努めています。今後は、非常勤職員も園内・園外の研修に参加できるように配慮することや、人材育成計画・経験年数や習熟度に応じた期待水準などを明文化して作成することが望まれます。
- ・運動会、お楽しみ会、誕生会などの行事は、恒例のイベントとしてのみ捉えるのではなく、園の保育方針に基づくものであることを必ず確認し、事前に目的・目標を決め、詳細な計画を立てるとともに、実施後は反省点などを細やかに話し合っています。

分類別評価結果

横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市健康福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hyouka/index.html> を参照して下さい。




「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。

3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある

評価分類の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。

評価領域 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 保育方針の共通理解と 保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育理念として、「子どもの人権や主体性を尊重する」「子どもの最善の利益のために児童の福祉を積極的に推進する」などを掲げ、利用者本人を尊重したものとなっています。 ・ 保育方針として、 「保育者は子ども一人ひとりのあるがままを受け入れ、“やさしくあたたかく”の姿勢で接する。安心できる保育士の見守りの中で、子どもが安心感をもって遊んだり生活できるようにする。」 「家庭と保育園共同体で子育てしていく中で、子育ての喜びを共有し、子どもと保護者そして保育者も共に育ちあう“共育”を目指していく。」を掲げています。 ・ 保育目標として、次の5つを掲げています。 元気でよく遊ぶ子ども（生きる力） よく見、よく聞き、よく考える子ども（言語・思考力） よくつくりだし、よくあらかず子ども（創造・表現力） 思いやりと愛情豊かな子ども（自然との共生・連帯） 正しいことに向かって協力する子ども（自立・判断・行動力） ・ 保育課程の作成にあたっては、マンションが密集する新興住宅地で、住民は比較的若い世帯が多く、教育的関心が強いことや、近隣に多くの公園があることなどを考慮しています。また、家庭ではなかなか体験できないような活動（もちつきや季節の行事など）や、思いっきり身体を動かすような活動を取り入れるようにしています。 ・ 保育課程に基づき、年齢ごとに、年間指導計画、月間指導計画、週案を作成しています。 ・ 指導計画は、子どもの自主性や主体性を育て、発揮できるように配慮しています。また、保育士は、子どもたちの意見・要望を聞いて、その日の計画を変更するなど、柔軟に対応しています。

- 2

子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施



- ・ 入園説明会や入園式後に、担任保育士が保護者と個別に面談しています。食べ物のアレルギーや持病のある子どもの場合には、担任のほかに、主任や必要に応じ管理栄養士も参加しています。
- ・ 0~2歳児に対しては、決められた書式のノート、3歳児以降は、自由形式のノートを用いて、保護者とのていねいな連絡を図っています。
- ・ 0,1歳の新入園児に対して、「全保育士が主担当」という気持ちを持ち、良く連携を取りながら子どもと関わるようにしていますが、個別に主担当保育者を決めることはしていません。
- ・ 年度始めの4~5月は、新入園児を迎えたり、進級したりしたことで、在園児も気分的に落ち着かないことが多いので、園長・主任もできるだけ園児と関わるように配慮しています。
- ・ 毎月のクラス会議や職員会議などで、現在の子どもたちの様子を把握した上で、指導計画の見直しを行っています。

- 3

快適な施設環境の確保



- ・ 保育園の屋内・外とも、清潔に保たれています。
- ・ 部屋ごとに空調設備を設置し、温度計・湿度計で日々確認しています。特に乾燥がひどい時は、加湿器や濡れタオルを使用し、湿度を保つようにしています。
- ・ 2,3,4歳児室は、腰高程度のロッカー等で仕切っていて、上部はオープンで繋がっているため、声や音などで隣のクラスの活動に支障がないように配慮しています。気になった時は、保育士間で声を掛け合い注意していますが、時として声や音が大きくなることもあるので、さらなる工夫が望まれます。
- ・ 0歳児室の隣に、沐浴設備および温水シャワーがあります。
- ・ 5歳児室隣のままごとコーナーに、おもちゃや絵本などが置いてあるほか、廊下には絵本棚・小さなベンチが数脚あり、異年齢児交流の場となっています。
- ・ 小集団保育を行えるように、0,1歳児室では、遊びのコーナーや簡単な仕切りなどを設けています。2歳児室にも、同様の工夫が望まれます。

- 4

一人ひとりの子どもに個別に対応する努力



- ・ 0~1歳児には、個人別に月間指導計画を作成しています。2~5歳児でも、特に配慮を要する子どもなどについては、個人別月間指導計画を作成しています。
- ・ 個人別指導計画の内容は、必要に応じ、個人面談などの際に、保護者に伝えています。
- ・ 児童票・面談記録・保育経過記録などは、個人別にファイルし、必要に応じ全職員が見ることができます。ファイルは持出禁止とし、鍵の掛かる書架に保管して、夜間・休日など閉園時は施錠しています。

- 5

保育上、特に配慮を要する 子どもへの取り組み



- ・特に配慮を要する子どもや、障がいのある子どもを積極的に受け入れています。
- ・特に配慮を要する子どもや障がいのある子どもに関する情報や保育技術については、外部研修などで学んできた職員が、全体ミーティングで発表したり、研修報告書を全員に回覧したりして、日々の保育に活かせるようにしています。
- ・園入口にはスロープがあり、園内はほぼフラットなつくりとなっていて、バリアフリーに配慮しています。
- ・床面などのバリアフリー以外に、特に配慮を要する子どもや気になる子どもが、一人で静かに落ち着いて過ごすことができるスペースを、今後どのように確保するかを検討しています。
- ・保護者の同意を得て、地域療育センターあおば・区福祉保健センターなどから、情報や助言を得ています。
- ・アレルギーに関する知識や情報は、職員会議・給食会議などで職員に周知しています。
- ・食物アレルギーのある子どもの保護者とは、連絡を密に取り合い、代替食や除去食を提供しています。
- ・日本語が話せなかったり、理解が困難な保護者に関しては、英語遊びの先生が通訳したり、保護者の中で外国語に堪能な方をお願いしたりして、意思の疎通が図れるようにしています。


- 6

苦情解決体制



- ・要望・苦情対応マニュアルの内容を、フローチャート形式で簡潔に表したものを、入園のしおりに記載し、園内にも掲示しています。その中に、要望・苦情受付担当者は主任であること、第三者委員に直接苦情を申し立てできること、権利擁護機関としてかながわ福祉サービス運営適正化委員会があることなどを伝えています。
- ・第三者委員として、民生委員・児童委員の人など、2人定めています。第三者委員とは、年3回、情報交換を行い、園の課題や問題点などについて、客観的な視点からアドバイスをもらっています。
- ・苦情・トラブルや要望の記録をまとめ、今後の保育に活かすようにしています。また、年間の苦情内容をまとめ、文書で保護者に報告しています。

評価領域 サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育室は全体としてオープンな作りとなっておりますが、年齢に応じて、0、1 歳児の保育室は落ち着いて過ごせるように仕切りがあり、5 歳児の保育室は製作などに集中して取り組めるように離れた場所となっております。 ・ 一斉活動は、保育士主導の遊びではなく、子どもの思いを大切に集団活動に取り入れています。逆に、遊びが見つけれない子どもには、一緒に遊んだり、言葉かけをしたりして、遊びが発展していくよう配慮しています。 ・ 子どもたちが育てたオクラやミニトマトを使ったサラダパーティや、パプリカをピザ作りに取り入れるなど、保育の中で行った栽培の経験を、調理する喜びや食べる楽しみにつなげています。 ・ 造形では、子どもが自発的に表現できるようにさまざまな素材を用意し、自由に使えるよう配慮しています。例えば、一人の子どもが絵本の中で牛乳パックを使った紙すきを見つけたことから、クラス全員で、勤労感謝の日に保護者へ贈る手紙のはがき作成につなげていました。 ・ 保育士は、子どもの気持ちを汲みとり、子どもが満足いくまで遊びや作品作りに取り組めるよう、時間設定にも配慮しています。 ・ 子ども同士のトラブルの際、すぐに保育士が止めに入るのではなく、子どもの様子を危険のないよう見守るようにしています。少し時間がかかっても、自分の思いを相手に伝えることができるように、保育士が仲立ちし、子ども同士で解決できるよう援助しています。 ・ 毎週水曜日午後は、幼児クラス合同の「コーナー遊びの日」としてしています。3、4、5 歳児の各部屋に、それぞれ積み木・ブロック・粘土・画用紙などを置き、子どもたちは自由に部屋を行き来して異年齢児交流の場となっています。また、異年齢児交流の趣旨をクラスだよりで保護者にも伝えています。 ・ 公園では固定遊具で遊ぶだけでなく、斜面を登り降りするなど、自然の傾斜を生かした活動を意識的に取り入れ、発達段階に応じて、運動能力を高められるような遊びの環境を意識しています。 ・ 全クラスで週 1 回程度、外国人の先生による英語遊びの時間があり、子どもたちは遊びをとおして英語に親しんでいます。また、遊びの中で、出身国や他の国の習慣・文化を伝えることもあり、さまざまな人がいることを子どもたちは知っています。

- 1 保育内容[生活]



- ・旬の食材を意識し、メニューに多く取り入れています。
- ・また、その内容も子どもたちに話し、給食だよりで保護者にも積極的に伝えていきます。季節感のある献立や食欲を促す盛りつけなどに配慮しています。
- ・絵本を参考に「3色食品群」(食べ物を、含まれる栄養素の働きの特徴により、3色の食品に分類したものを「赤レンジャー、緑レンジャー、黄レンジャー」と称して子どもたちにも分かるように工夫し、子どもたちが食事及びその過程(調理・配膳・片づけ)に関心を持つよう工夫しています。
- ・栄養士は、給食会議で担任からの率直な意見を聞くことで、子どもたちの好き嫌い、嗜好をしっかりと確認して、盛り付けや調理方法に反映させて工夫をしています。3ヶ月ごとにメニューを変えているので、嫌いなものは出さないのではなく、2回目、3回目には、盛り付けや味付けを変えて食べられるように工夫しています。
- ・献立表とともに、給食だよりを発行し、献立作成のポイントや旬の食材の紹介や食中毒予防の知識、健康維持のための食の必要性など、食に関わる情報提供を保護者に対して行っています。また、給食だよりでは、子どもたちに人気のあるメニューや栄養士お勧めのレシピを紹介しています。
- ・眠れない子ども、眠くない子どもには、午睡を強要するのではなく、保育士がそばについて話しかけたり身体をさすったりしながら静かに過ごさせるなど柔軟な対応をしています。また5歳児クラスでは活動の内容を考慮しながら、就学に向け少しずつ午睡の時間を減らすようにしています。
- ・乳児クラスでは、連絡帳に園での排泄状況を記載し、保護者との連携を密にしています。トイレトレーニングは一人ひとりの発達状況に応じて、個々の発達の様子や保護者の思いを汲んで、トイレでの排泄が成功するよう言葉掛けを行っています。

- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]



- ・子どもの健康管理に関するマニュアルを作成しています。
- ・マニュアルに基づき、一人ひとりの子どもの健康状態を把握しています。例えば、朝の預かりの際、子どもの様子(顔色、機嫌、傷の有無等)をしっかりと確認し、体調が悪そうな子どもはこまめに検温したり、排泄の状態を確認したり、健康状態の把握に努めています。
- ・一人ひとりの健康診断・歯科健診の結果は保護者に伝え、連携を密にしています。また、その記録は健康管理カードや歯科健診カードに記載し、在園中の健康の記録は一覧で見られるようにしています。
- ・感染症が発生した場合は、掲示板などで保護者にその病気の特徴や各クラスでの発生状況などの情報を速やかに知らせています。また、保育中に発症した時は、保護者へ速やかに連絡し、対応については子どもの健康状態と保護者の事情も考慮して柔軟に対応しています。

- 2 健康管理・衛生管理・
安全管理 [衛生管理]



- ・ 衛生管理マニュアルに基づいて清掃などを行い、清掃担当者だけではなく、気がついた職員が自主的に行うことを徹底しています。
- ・ マニュアルは、定期的に内部研修で内容の確認を行い、職員間で周知を行うほか、必要に応じてその都度改訂を行っています。

- 2 健康管理・衛生管理・
安全管理 [安全管理]



- ・ 安全管理に関するマニュアルを作成し、全職員に周知するとともに、地震等を想定した備品等の転倒防止など安全対策を講じています。
- ・ 保護者や救急機関、地域への連絡体制が確立しています。嘱託医だけでなく、夜間や土日に開いている病院などをリストアップし、突然の場合でもあわてることなく対応できるようにしています。
- ・ 子どものケガについては、小さな怪我でも連絡帳と口頭で保護者に伝えています。事故や病院へ行く必要があった怪我については、事故報告書を作成し、職員会議などで改善策を議論し、再発防止に努めています。
- ・ 大きな怪我にはつながらなかったものの、ヒヤリとした事柄についてはインシデントレポートを作成し、活動ではこういった場面で気をつけていくべきか、再発防止策の検討を行い、改善策を実行しています。
- ・ 不審者の情報は、スクールポリスネットや区役所からの情報 FAX が入り、小学校からは何かあった場合に連絡が来るよう体制が整っています。また、保護者にもすぐに伝えるべき情報は、メールで一斉送信できるシステムになっています。保護者から、不審者に関する情報が園に入ってくることもあります。

- 3 人権の尊重





- ・ 全職員が「保育者は子ども一人ひとりのあるがままを受け入れ、“やさしくあたたかく”の姿勢で接する」という保育方針を常に意識して、子どもに対して威圧的な言葉遣い、無視が行われないよう、職員間で相互に配慮しています。
- ・ 保育士は、子どもの気持ちを受けとめ、一人ひとりの個性を尊重するよう配慮しています。
- ・ 子どもに威圧感を与えずに一对一で落ち着いて話し合う必要がある場合には、玄関スペースや保健室を利用しています。
- ・ 個人情報の取り扱いについての基本的な事柄は、法人が作成したプリントをもとに、全職員が学習する機会を設け、周知しています。また、法人として「プライバシーマーク」を取得し、個人情報保護について積極的に取り組んでいます。
- ・ 虐待に関するマニュアルがあり、虐待が疑われるような場合には、区の保健師等に相談し、どのように保護者にアプローチしていくべきかをアドバイスしてもらうなど関係機関との連携体制がとれています。
- ・ 子どもや保護者に対して、父親・母親の役割を固定的にとらえた話し方、表現をしないようにしています。男女(性差)はあくまでも特徴としてとらえ、それによつての先入観を子どもたちに植え付けないようにしています。

- 4 保護者との交流・連携






- ・園だよりやクラスだよりを定期的に発行し、連絡事項や、子どもたちの様子など、園からの情報を伝えています。単なる情報だけにとどまらず、園や保育士の思い、保育のねらいやその内容も分かりやすく伝えています。また、日常保育の中では、連絡帳などで保育方針が理解されるよう努力しています。
- ・クラス全体の様子を伝えるために、保護者懇談会を実施しています。懇談会では、園から一方的に連絡事項を伝えるのではなく、事前にアンケートを集めるなど、一つの問題に対して園と保護者が一緒に話し合える時間となるように工夫しています。
- ・保護者からの相談を受けた職員が適切に対応できるよう、相談事項は必ず園長・主任に報告し、助言が園としての統一した考え方となるようにしています。また、相談は記録し、必要に応じて、その後のフォローを行っています。
- ・「パパママ先生」と称した保育参加を、幼児クラスで年 18 回行い、希望する保護者を積極的に受け入れています。参加した保護者からは、「子どもたちの様子が良く分かった」「先生方の努力が素晴らしい」など多くの感想が寄せられています。
- ・保護者懇談会に出席できなかった保護者へは、懇談会の内容をプリントして渡し、必要に応じて個別に説明して、フォローしています。
- ・保護者会はありませんが、保護者有志の自主的な活動については、場所などの提供をしています。また、園の運営委員会には保護者代表が入っています。




評価領域 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・一時保育希望で訪れた保護者から、子育て支援に対する要望や育児に関する悩みを汲み取っています。 ・職員会議や自主研修会（スキップの会）で、地域の子育て支援ニーズについて話し合っています。 ・子育て支援として、一時保育を実施しています。 ・地域住民に向けての相談事業、子育てや保育に関する講習・研修会はありません。
<p>- 2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会やお楽しみ会などの園行事のポスターを近隣の歯科医院、商店の看板、小学校などに掲示してもらい、園の活動を地域に知らせています。また、園だよりやクラスだよりを地域の学校や民生委員・児童委員に送っています。 ・青葉区福祉保健センターや地域療育センターあおばなど関係機関との連絡は、園長または主任が担当し、相談に応じていつでも連絡が取れるようになっています。 ・地域住民へ向けての情報提供や育児相談は、まだ行っていません。




評価領域 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣の小学校に園長が日頃から赴いて、連携を深めています。小学校のPTAが主催するお祭りでは、工作コーナーを出して保育士がおもちの作り方を教えています。 ・ 散歩や公園での戸外遊びのときには、子どもたちは出会う人と積極的にあいさつや会話を交わしています。近くの商店にクッキングの日に使う食材などを、子どもたちが買い物に行っています。 ・ 5歳児クラスの子どもたちが、散歩や遊びで利用する公園で、月1～2回ごみ拾いをし、近隣の人々から喜ばれています。 ・ これまで施設開放や備品の貸し出しを地域から要請されたことはなく、そうした取り組みは、まだ行っていません。
<p>- 2 サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園のパンフレットを地域の小学校や民生委員・児童委員、地域療育センターあおばなどの関係機関に渡しています。 ・ 園に関する情報は、横浜市こども青年局のホームページ『はびねすぽっと』で見ることができます。 ・ 園見学の日時はできる限り、見学者の希望に沿うようにしています。保育に支障のないよう、同時に見学できる人数は2人までとし、丁寧に説明することを心掛けています。
<p>- 3 ボランティア・実習の受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習生受け入れのためのマニュアルがあり、受け入れの際は事前にはオリエンテーションを行い、園の保育方針や注意事項などを、実習生に説明しています。 ・ 実習受け入れについては主任が担当し、一人ひとりの活動記録を残しています。 ・ 実習中は毎日、実習生と担当する保育士とで反省会を行っています。最終日には各クラスの保育士や主任も加わって実習生にアドバイスし、保育についての話し合いもしています。 ・ ボランティア受け入れのためのマニュアルを作成し、受け入れ担当は主任です。 ・ 体験学習の中学生を受け入れています。

評価領域 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園運営に十分な人材構成となるように、必要に応じ、人材の補充を行っています。また、単に人数を合わせるのではなく、そのクラスの状況に応じた職員配置となるように考慮しています。 ・人材育成計画は作成されていません。 ・園長が年2回、全職員（非常勤職員も含む）と面談し、目標設定とその達成度評価を行っています。 ・職員会議の時間の一部を利用し、園内研修を行っています。また、自主研修会（スキップの会）が年12回行われ、有志が参加しています。 ・市・区主催の研修、その他の外部研修などに職員が参加しています。 ・園内研修や外部研修に、非常勤職員も参加できるように配慮することが望まれます。 ・職員会議・ミーティング・自主研修会などで、外部研修に参加した職員が発表し、他の職員に伝えているほか、研修報告書を全職員に回覧し、保育に活かすようにしています。 ・非常勤職員の指導は、主に主任が行っています。主任は、常勤職員・非常勤職員双方の要望などを聞き調整するなど、お互いが気持ちよく仕事ができるように配慮しています。
<p>- 2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議・ミーティングなど、あらゆる機会をとらえて、保育上の課題などを話し合い、見直しをしています。 ・運動会、お楽しみ会、誕生会などの行事は、恒例のイベントとして行うのではなく、園の保育方針に基いて行うものであることを認識しながら行っています。そのため、必ず事前に目的・目標を確認し詳細な計画を立てるとともに、実施後は反省点などを話し合っています。 ・外部研修などで得た良い事例を、職員会議で話題とし取り上げ、どのように活かせるかを検討しています。また、保護者からの要望も、子育てサポートの一つの事例としてとらえ、園としてできる限りの対応ができるように話し合っています。 ・子どもの歯磨き指導のため、保育士は歯科医から指導を受けています。また、消防訓練や交通安全教室など、特に子どもの安全（命）を守ることに關しては、外部の指導を受けています。
<p>- 3 職員のモチベーション維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園長・主任は、日頃から職員とのコミュニケーションを積極的に持ち、いつでも職員がアイデアや改善点などを提案できる雰囲気となるようにしています。 ・誕生会で、職員がさまざまな国の民族衣装を着て子どもたちに披露したり、合同で楽器演奏をしたり、自分の得意技を見せたり、お互いにアイデアを出し合いながら、職員自身も楽しみながら行っていることも、モチベーションの維持に繋がっています。 ・園長は、年2回の全職員との面談の際に、職員の満足度・要望などを把握しています。 ・経験・能力や習熟度に応じた役割を、期待水準として明文化するには、至っていません。

評価領域 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就業規則中に服務規程を定めているほか、「全国保育士会倫理要綱」を全職員に配布し、周知しています。 ・ 他施設・他園などで不正、不適切な行為があったニュースや情報を、職員会議等で事例として取り上げ、自園で発生しないようにするにはどのようにしたら良いかを話し合っています。 ・ 環境への考え方や取り組みなどを、明文化して、園の運営に反映するまでには至っていません。 ・ 日常のゴミ減量化・リサイクルの取り組みとしては、ペットボトルキャップの回収運動に参加したり、廃品（牛乳パック・ダンボールなど）を教材として利用したりしています。 ・ 省エネルギー・緑化推進の日常の取り組みとしては、こまめに電気を消したり、テラスの緑化や、市の緑のカーテン運動に参加するなどしています。
<p>- 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「保育士の手引き」「入園のしおり」に、保育理念・保育方針を記載していて、全職員に配布し、周知しています。 ・ 職員会議などさまざまな機会に、保育方針の「 “ やさしくあたたかく ” の姿勢で接する 」とは何かを議論し、職員の理解を深めるようにしています。 ・ 延長保育料金設定の変更や、園の改修工事など、変更や新規に行う重要事項の際は、事前に保護者に伝え、意見のある場合には話し合いの場を設けています。また、必要に応じ、保護者にアンケートを取ることもあります。 ・ 主任は、できる限り各クラスを回り、職員の動きを確認したり、子どもとの関わり方を見たりして、気になる点があれば、個別に話をする機会を設け、的確な助言や指導を行っています。
<p>- 3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の子育て支援ニーズを調べたり、他園の情報を聞いたりして、園としてできる地域の子育て支援は何かを園全体で取り組む重点課題としています。 ・ 2006年4月（平成18年）に、5年間の事業計画を定めています。 ・ 利用者がさらに満足できるような保育園となるように、「やさしくあたたかく接する保育」を合言葉に、運営や新たなしくみを、常に話し合っています。 ・ 運営に関し、外部の機関や専門家などの意見を取り入れるには至っていません。

利用者（園児）家族アンケート 分析

- 1、実施期間 2009年9月14日～9月27日
- 2、実施方法 保育園から全園児の保護者に直接配付（手渡し）し、回答を依頼。
各保護者より、同封の返送用封筒で、評価機関あてに無記名で返送。
- 3、回収率 67.8%（87枚配付、59枚回収）
- 4、所属クラス 0歳児クラス...5人、1歳児クラス...9人、2歳児クラス...12人、3歳児クラス...13人、
4歳児クラス...7人、5歳児クラス...13人

同一家族で複数名が園に在籍している場合は、下の子どものクラスについて回答。
文中の「満足」「満足度」は、「満足」・「どちらかといえば満足」の回答を合計した数値、
「不満」は、「不満」・「どちらかといえば不満」の回答を合計した数値です。

設問ごとの特徴

【問1】保育園の基本理念や基本方針について

保育目標・保育方針を「よく知っている・まあ知っている」という回答が合わせて70%です。その内、「賛同できる・まあ賛同できる」という回答は合わせて98%と、高い結果が出ています。

“親と保育士の距離感が近い”“家庭と園との価値観が同じ”など、園の基本理念に共感する声が複数ありました。

【問2】入園時の状況について

「入園前の見学や説明など、園からの情報提供について」は、90%以上の保護者が満足しています。「保育園での1日の過ごし方についての説明」「費用やきまりに関する説明について」は、どちらも95%の保護者が満足しています。

【問3】年間の計画について

「年間の保育や行事についての説明」には90%以上の保護者が満足しています。「年間の保育や行事に保護者の要望が活かされているか」については86%の保護者が満足していますが、“行事に伴う準備物については、もう少し早く伝えて欲しい”という要望の声もありました。

【問4】日常の保育内容「遊び」「生活」について

「遊び」の項目では、「おもちゃや教材について」「遊びを通じての友だちや保育者との関わり」「戸外遊び」等の全ての項目について、90%以上の保護者が満足しています。“近隣の公園を活用している”“散歩をとおして、子どもたちが四季を感じたり、自然に触れあう機会が充実している”など、園の屋外活動に対する工夫と考え方に共感する意見が多くありますが、“園庭が小さく外遊びが少ない”という意見も見られました。

「生活」の項目では、「給食の献立内容について」は、100%の満足度となっています。「給食を楽しんでいるか」「体調への気配り」「基本的な生活習慣の自立に向けての取り組み」など他の項目でもほぼ90%の満足度となっています。

【問5】快適さや安全対策などについて

「施設設備」については30%、「お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気か」については22%の保護者が不満と感じています。

“園庭が狭い” “トイレ・洗面所が少ない” “保育室がオープンになっているため、感染症の拡大に不安がある” という意見や “トイレの臭いが強い” という声が複数あります。ハード面での改善は困難な課題ですが、園としての工夫や対策について、保護者と話し合い、理解を得ることが望まれます。

【問6】園と保護者との連携・交流について

「残業などで迎えが遅くなる場合の対応」「園だよりや掲示による情報提供」「保護者からの相談ごとへの対応」などの項目で、ほぼ90%以上の満足度です。“小さな事でも報告してくれる” “悩みや相談を聞いてくれる” という感謝の言葉が複数あります。

一方、「送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換」については85%の満足度ですが、“もう少し、個人面談を増やして欲しい” “子どもの様子を詳しく知りたい” “職員の数が少ない降園時間帯の見守り体制・連絡対応を考えて欲しい” という意見もありました。

【問7】職員の対応について

ほとんどの項目で、90%以上の満足度となっています。“信頼して預けられる” “壁がないので、他のクラスの先生も見てくれる” という意見が複数ありました。

「アレルギーのあるお子さんや障がいのあるお子さんへの配慮」について「その他・無回答」が合わせて16%ですが、意見欄に“該当しない” “分からない” という回答が見られます。

【問8】保育園を総合的に評価すると

99%の保護者が満足しています。

【問9】園への要望など

“安心して子どもを預けられる” “熱心な先生が多い” など、園への理解や感謝が伝わる意見が多く見られます。

まとめ

園への要望では、非常に高く評価する意見が多くあり、保護者の満足度は高く、園と保護者の信頼関係が築かれていることが伺われます。

しかし、ハード面についてや降園時の対応などの細かい点での要望はあります。“伝えにくいことだけでなく、提案も出せる意見箱を設置したら、さらに良い園になると思う” という意見もありました。今後もこのような保護者の思いに応え、小さな声も受け止めて、保護者とともにさらに良い園を目指す姿勢を持ち続けられることを期待します。

利用者（園児）家族アンケート集計結果

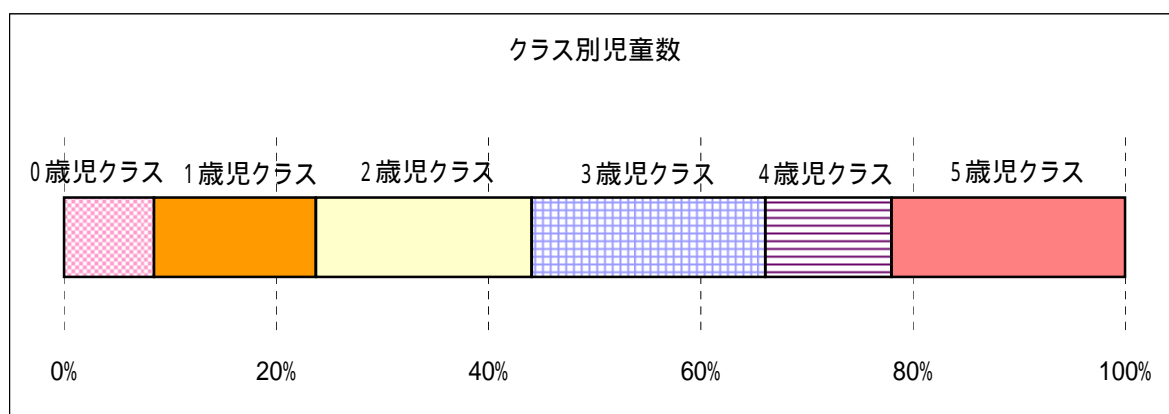
実施期間： 2009年 9月14日～9月27日

回収率： 67.8% （回収59枚 / 配布87枚）

【属性】

クラス別児童数							(人)
合計	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
59	5	9	12	13	7	13	0

同一家族で複数名が園に在籍の場合は、下の子どもで記入



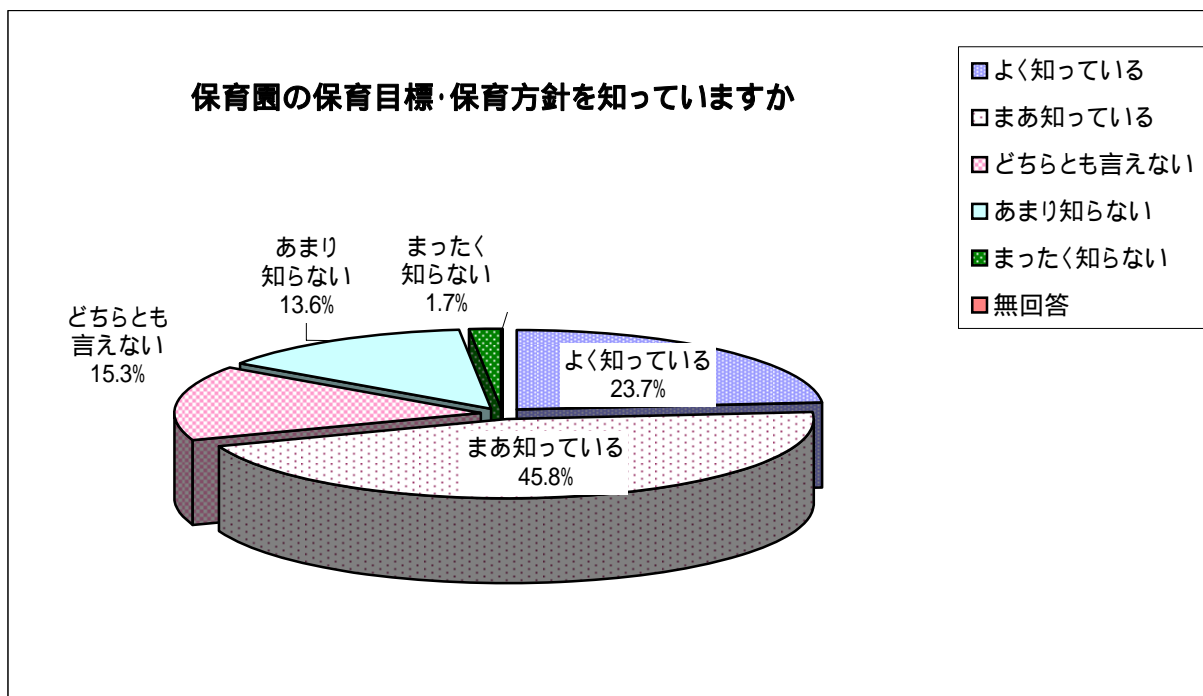
保育園の基本理念や基本方針について

問1：保育園の保育目標や保育方針を知っていますか

(%)

問1：	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	23.7	45.8	15.3	13.6	1.7	0.0	100

(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になります。)

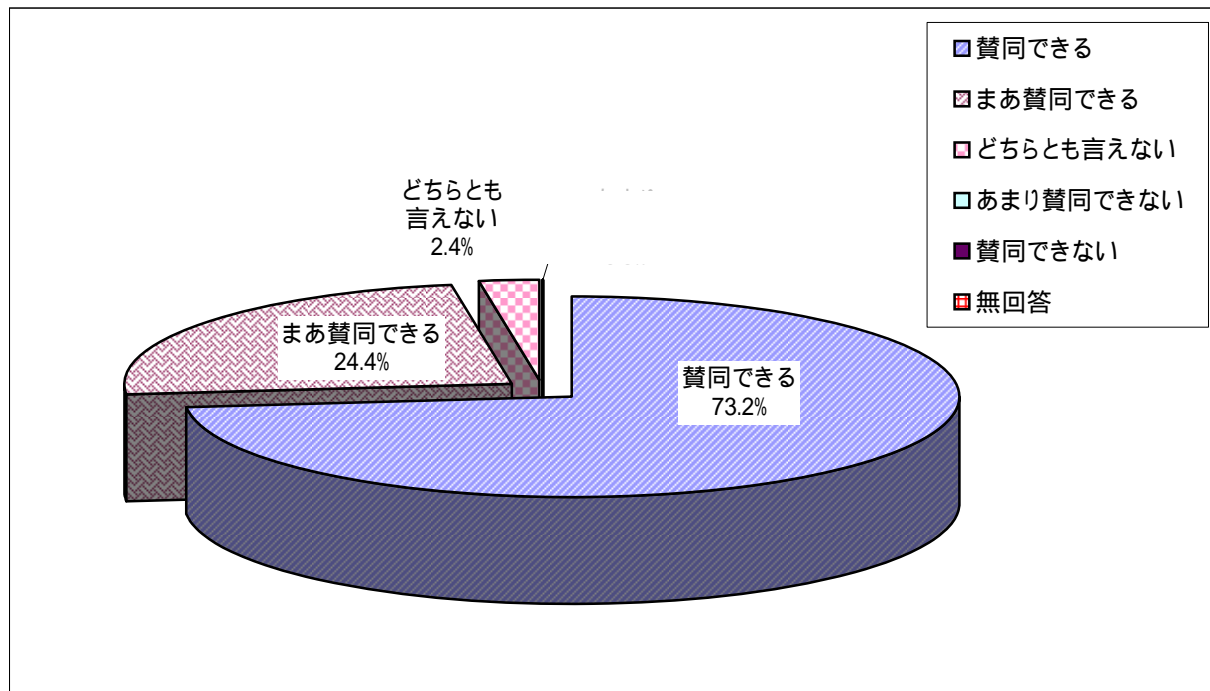


「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

付問1：その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか

(%)

付問1：	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	73.2	24.4	2.4	0.0	0.0	0.0	100



保育園のサービス内容について

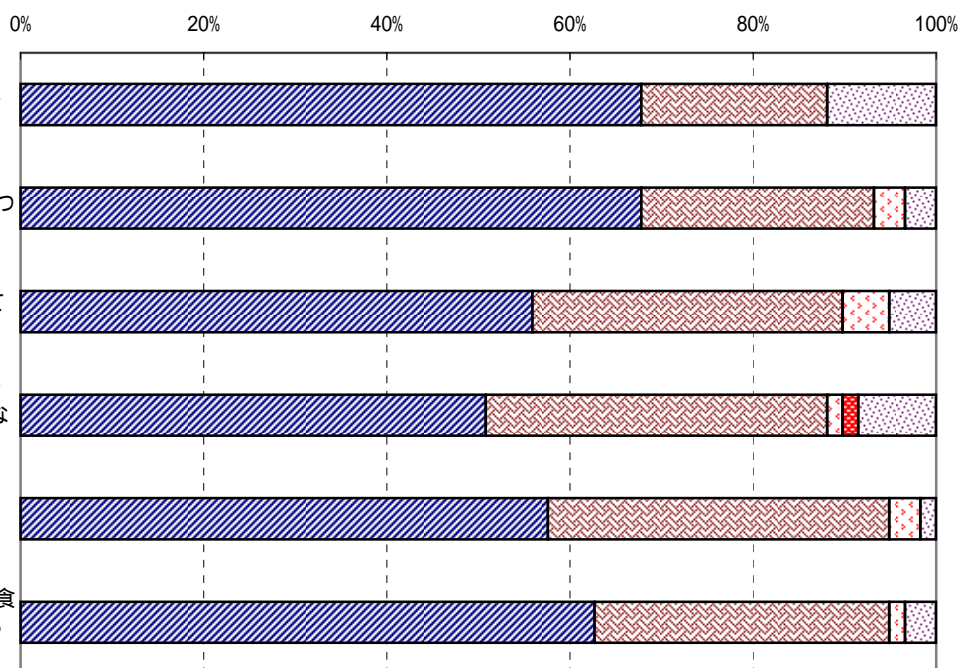
問2 入園時の状況について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	67.8	20.3	0.0	0.0	11.9	0.0	100
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	67.8	25.4	3.4	0.0	3.4	0.0	100
園の目標や方針についての説明には	55.9	33.9	5.1	0.0	5.1	0.0	100
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	50.8	37.3	1.7	1.7	8.5	0.0	100
保育園での1日の過ごし方についての説明には	57.6	37.3	3.4	0.0	1.7	0.0	100
費用やきまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったかなども含めて)	62.7	32.2	1.7	0.0	3.4	0.0	100

入園時の状況について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



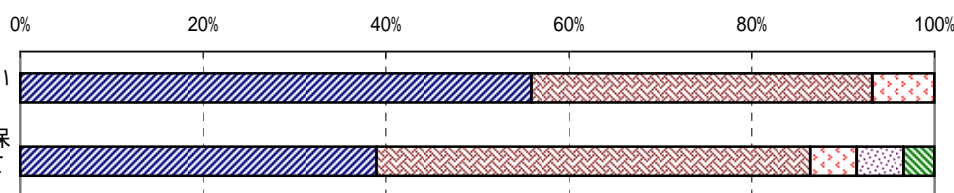
問3 年間の計画について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	55.9	37.3	6.8	0.0	0.0	0.0	100
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	39.0	47.5	5.1	0.0	5.1	3.4	100

年間の計画について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

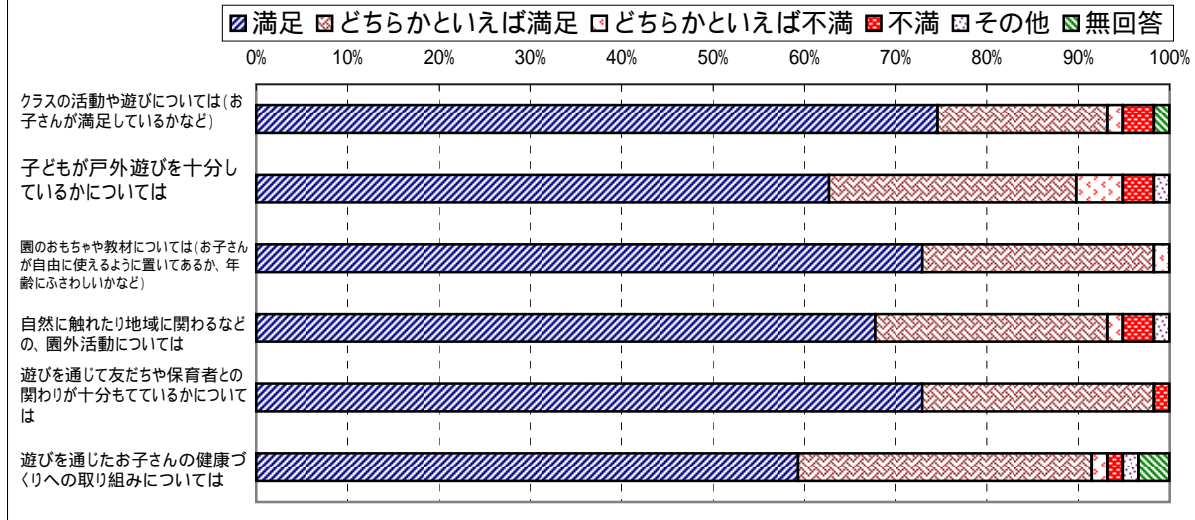


問4 日常の保育内容について

(%)

「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
クラスの活動や遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	74.6	18.6	1.7	3.4	0.0	1.7	100
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	62.7	27.1	5.1	3.4	1.7	0.0	100
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	72.9	25.4	1.7	0.0	0.0	0.0	100
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	67.8	25.4	1.7	3.4	1.7	0.0	100
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	72.9	25.4	0.0	1.7	0.0	0.0	100
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	59.3	32.2	1.7	1.7	1.7	3.4	100

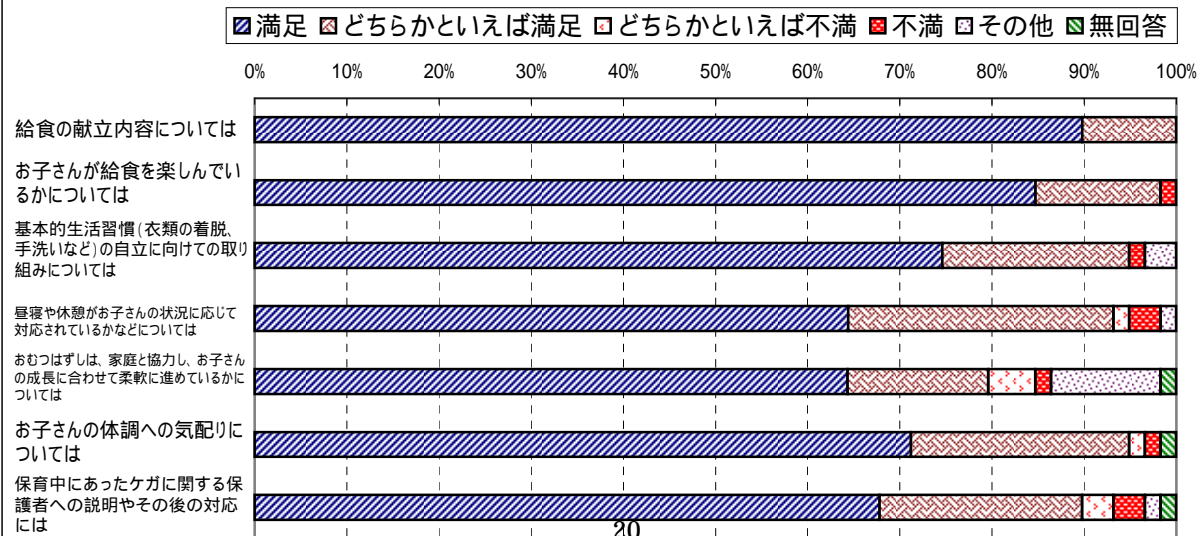
日常の保育内容「遊び」について



(%)

「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
給食の献立内容については	89.8	10.2	0.0	0.0	0.0	0.0	100
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	84.7	13.6	0.0	1.7	0.0	0.0	100
基本的な生活習慣(衣類の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	74.6	20.3	0.0	1.7	3.4	0.0	100
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	64.4	28.8	1.7	3.4	1.7	0.0	100
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	64.4	15.3	5.1	1.7	11.9	1.7	100
お子さんの体調への気配りについては	71.2	23.7	1.7	1.7	0.0	1.7	100
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	67.8	22.0	3.4	3.4	1.7	1.7	100

日常の保育内容「生活」について



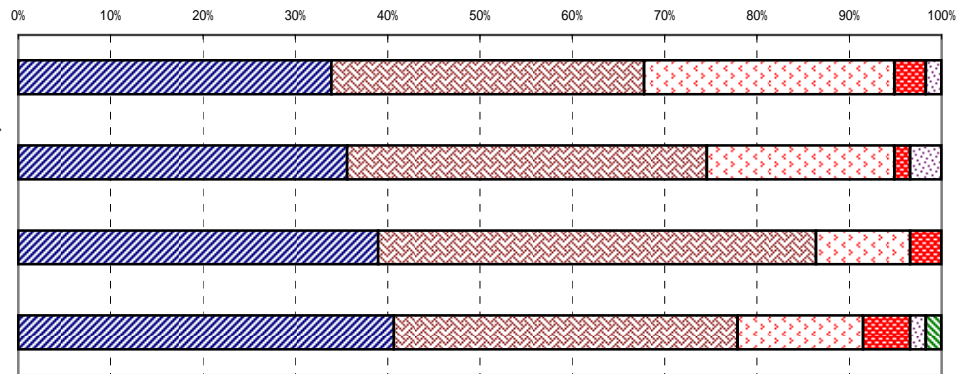
問5 快適さや安全対策などについて

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
施設設備については	33.9	33.9	27.1	3.4	1.7	0.0	100
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	35.6	39.0	20.3	1.7	3.4	0.0	100
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	39.0	47.5	10.2	3.4	0.0	0.0	100
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	40.7	37.3	13.6	5.1	1.7	1.7	100

快適さや安全対策などについて

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答



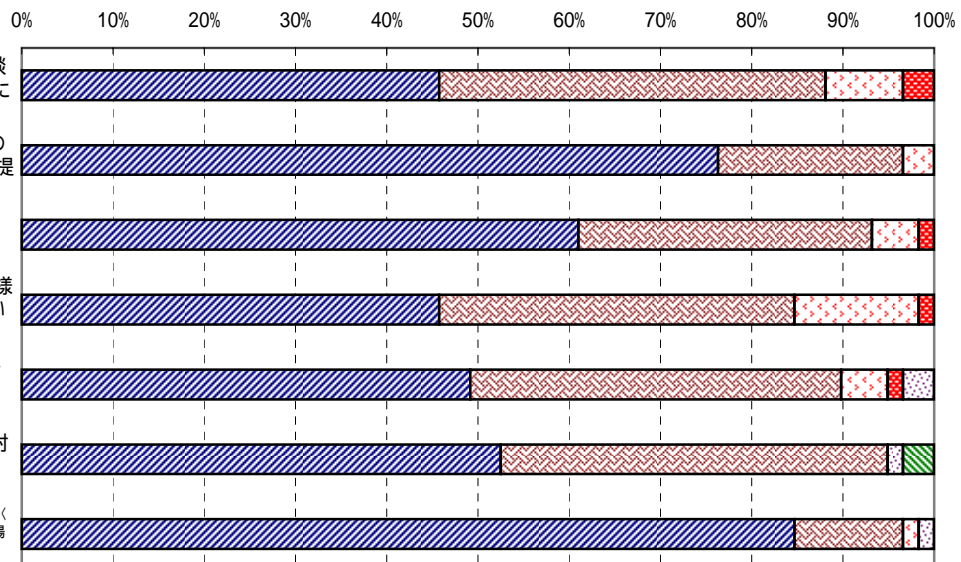
問6 園と保護者との連携・交流について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	45.8	42.4	8.5	3.4	0.0	0.0	100
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	76.3	20.3	3.4	0.0	0.0	0.0	100
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	61.0	32.2	5.1	1.7	0.0	0.0	100
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	45.8	39.0	13.6	1.7	0.0	0.0	100
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	49.2	40.7	5.1	1.7	3.4	0.0	100
保護者からの相談事への対応には	52.5	42.4	0.0	0.0	1.7	3.4	100
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	84.7	11.9	1.7	0.0	1.7	0.0	100

園と保護者との連携・交流について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答



問7 職員の対応について

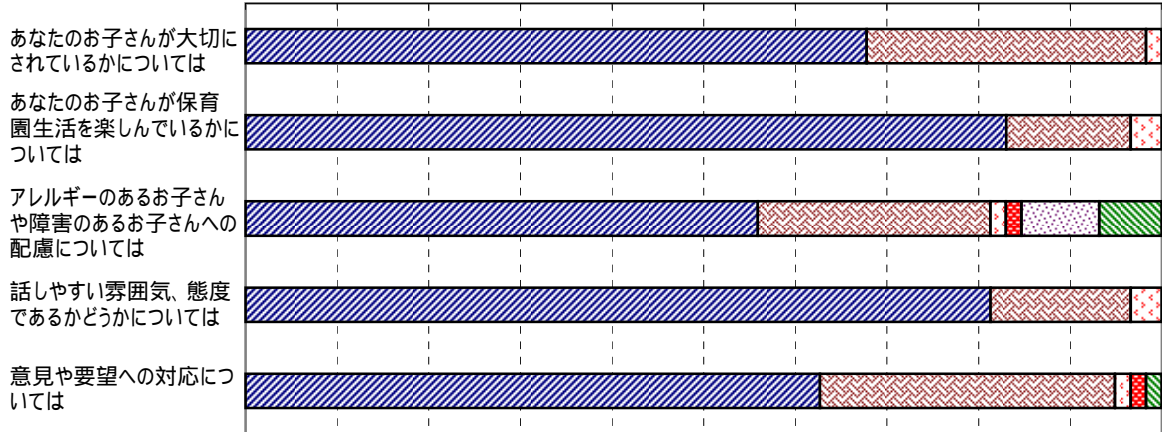
(%)

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	67.8	30.5	1.7	0.0	0.0	0.0	100
あなたのお子さんが保育園生活を楽しくしているかについては	83.1	13.6	3.4	0.0	0.0	0.0	100
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	55.9	25.4	1.7	1.7	8.5	6.8	100
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	81.4	15.3	3.4	0.0	0.0	0.0	100
意見や要望への対応については	62.7	32.2	1.7	1.7	0.0	1.7	100

職員の対応について

■ 満足 ■ どちらかといえば満足 ■ どちらかといえば不満 ■ 不満 ■ その他 ■ 無回答

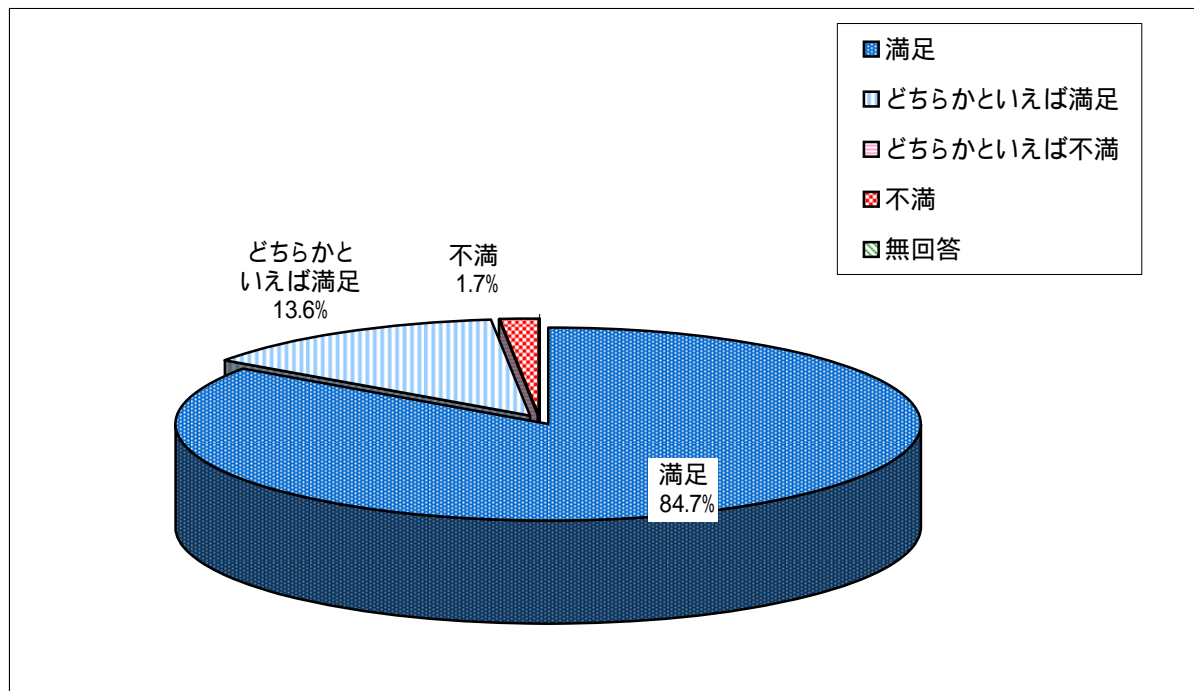
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問8 保育園を総合的に評価すると

(%)

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	84.7	13.6	0.0	1.7	0.0	100



利用者（園児）本人調査 分析

観察調査 11月9日（月）9：00～18：00 11月19日（木）8：30～18：00

観察中、幼児を中心に、会話の中で適宜聞き取りを行いました。

0歳児クラス（しんげつ組）

朝登園すると、子どもたちは自分の好きなおもちゃでゆったりと遊んでいます。朝の会の時間になり、保育士が片付けを促すと、子どもたちは自分でカゴの中に入れたり、同じ種類のぬいぐるみ同士を並べたりしています。保育士は、一人ひとりのこだわりを汲んで、できないところを手伝っています。

午前中は散歩に出かけ、バギーに乗っている子どもも保育士と手をつないで歩く子どもも、車が通ると手を振ったり、引越して荷物を搬入する様子を眺めたり、ゆっくりとしたペースで進みます。公園に着くと、地域の子もたちや他の園の子もたちと混じって、滑り台付きの遊具で遊んだり、ドングリ拾いなどをしました。散歩から帰ると、到着した子どもから順番に、保育士にオムツ替え・着替えをさせてもらいます。

給食の時間は、刻み食の子どもは保育士に食べさせてもらっていますが、他の子どもたちは自分でスプーンを持って、手も使いながら積極的に食べています。

食べ終わると、子どもが1人で持てるようになっている歯ブラシを使った後、保育士に仕上げ磨きをしてもらいます。歯磨きが終わり、保育士がエプロンを外すと、それを子どもたちは得意そうな様子で、ロッカーに掛けてある自分のマーク付きのビニール袋に片付けに行きます。

1歳児クラス（みかづき組）

子どもたちは、朝の会が始まる前に、オムツをしてもトイレにいきます。その様子を保育士は見守りながら、必要に応じて援助しています。「でたー」と自分から大きな声で教える子どももいます。

ほぼ、トイレが済んだころ、保育士が促すと、絵本やぬいぐるみで遊んでいた子どもたちは、棚に片付けます。中にはぬいぐるみを離さない子どももいましたが、保育士に優しく「しまっておいで」と言われると素直に片付けました。

この日は、散歩へ出かけたところで雨が降り始め、すぐに戻ってくることになりましたが、散歩の途中では、「お散歩？かわいいわねー、いってらっしゃーい」と声をかけてくれるお年寄りや幼稚園児の親子に、子どもたちも手を振ったり、あいさつを交わしています。

園に戻り、雨にちなんで「かさかしてあげる」という絵本の読み聞かせがはじまると、子どもたちは、保育士のひざの上に座ったり、保育士に体を寄せたりしながら、真剣に耳を傾け、読み聞かせの声に合わせて声を出している子どももいます。

絵本を読んだ後、クレヨンでお絵かきが始まりました。子どもたちは、好きな色でぐるぐる線を書いたり、塗りつぶしたり、自由にクレヨン遊びを楽しんでいます。保育士が絵を書き始めると、「あんぱんマン」「きいろ」など、ハッキリと名前や色を言う子どももいます。

お絵かきに夢中になっていて、誰かに手を踏まれ泣き出した子どもに、保育士が「痛かったね」と言って水でその子どもの手を洗っていると、他の子どもが寄ってきて、「いたいの？」と声をかけるなど友だちをいたわる姿が見られました。

2歳児クラス（ゆみはりづき組）

「始まるよ！始まるよ！」という保育士の呼びかけで、子どもたちが集まると、紙芝居が始まります。紙芝居を楽しんだ後は、子どもたちが自然に、「ありがとうございました」とあいさつをして、保育士が「ど

ういたしまして」と応えています。

朝の会の後、トイレに行き、散歩の準備をしましたが、あいにく雨が降り出し、散歩を中止して、保育室で大好きな新聞遊びをすることになりました。

子どもは、新聞紙を一枚ずつ渡されると、保育士の手助けを受けながら、折って兜のようにしたり、丸めて棒のようにしたりしています。保育士に目のところだけ出る覆面を作ってもらったり、部屋に張り渡してあるロープにつり下げられた新聞紙めがけて丸めた紙ボールを投げて遊んだり、子どもたちは、それぞれ自由に遊んでいます。

給食は、給食の歌を歌った後、「いただきます」で食べ始めます。保育士は、終わりの時間を子どもたちに告げ、それぞれのテーブルに付いて子どもと一緒に給食を食べます。保育士は、子どもたちにいろいろ話しかけていました。

食べ終わったグループの子どもから、うがいをして、保育士に歯磨きをしてもらい、全員が終わったところで、「ごちそうさま」のあいさつで給食は終わりました。子どもたちは、トイレに行ったあと、保育室に戻ると、自分でパジャマに着替えます。脱いだ物は保育士がたたんでいます。

3歳児クラス（げんげつ組）

この日の散歩は園のすぐ近くにある美しが丘公園まで、2人ずつ手をつなぎ、列の前と後ろに保育士がついて出かけました。「バス!」「UFO!」などと、目に入ってくるもの・想像したものを楽しそうに大きな声で言いながら歩いていきます。公園内のテニスコートの横で、「テニス今からやるの?」と子どもたちが声をかけると、テニスをしている人たちからも「そうよ、かわいいわねー」と笑顔で答えが帰ってきました。

公園の奥の斜面で遊ぶことが決まると、保育士が笛を取り出して、「ピピーって言ったら、集まってね」など公園で遊ぶときのお約束を話して聞かせると、子どもたちは自由に散らばります。

オオカミごっこや、葉っぱを集めてベッド作り、地面から出ている木のくいを家に見立てて、釘打ちやネジ回しをまねる工事ごっこ、クッキー作りやバーベキューなど落ち葉を食材に見立ててのおままごと、木の实拾いなど、それぞれ自由に遊んでいます。斜面の上の方を舞台にして、2、3人が組になって歌を歌う女の子たちもいます。どの子どもも一つの遊びだけでなく、二つ三つの遊びに加わったり離れたたり、また戻ったりしています。

子どもたちは十分に体を動かし、好きな遊びに熱中して満足した様子。保育士が笛を吹かないでも「そろそろ帰ろう」と集まり始め、また2人ずつ手をつないで園に戻りました。

園の玄関の外で、保育士が、「保育園に入ったら、手を洗って、うがいはグジュグジュ3回と、ガラガラ3回いねいをお願いします」と説明すると、子どもたちは、給食当番から順に室内に入り、しっかりと手洗い・うがいをしていました。

4歳児クラス（もちづき組）

朝の会では、当番の4人が前に立ち、担任から手作りのマイクでインタビューを受け、自分の名前を言い、朝ごはんを食べたものを、納豆、ごはん、サラダ、ラーメンなどと答えています。

朝の歌と出席確認の後、子どもたちは、イスを片付け、手洗い・うがいをして、絵本をロッカーから出して読んでいます。保育士は子どもたち一人ひとりの背中に手をあてて熱がないか、また顔を見て鼻水など様子を確認しています。その間、子どもどうしの言い争いがあり、保育士が「君はこう思ったんじゃないの?」と互いの気持ちを代弁している様子が見られました。

この日は、英語遊びの時間があり、ブラジル出身の担当の先生はほとんど日本語を使わず、笑顔とジェスチャーを加えて、子どもたちとコミュニケーションを取っています。絵や文字、造形物を使つての遊びや手遊び歌、ゲームを通して、自然な形で英語に触れる時間となっています。

給食の時間は、保育士が御飯やおかずを配膳台に並べると、子どもは一人ひとり前に来て、それぞれを自分でよそい、席へ持っていきます。味噌汁はこぼさないように、皆真剣に運んでいます。保育士は、御飯は左、味噌汁は右と確認し、間違っている子には正しい並べ方を指導しています。箸を使っている子どもは少なく、ほとんどの子どもがスプーンかフォークを使っていました。

食事の間に、保育士が「赤レンジャー（血や筋肉になる赤の食品群）は？」と声をかけると、「豚肉」とか、その他の食べ物の名前を子どもたちが答え、間違った答えが返ると、保育士が訂正しています。

子どもたちは、おしゃべりをしながら食べていますが、全体的には静かです。当番が終わりのあいさつをした後も、食べ終わっていない子どもは、前の配膳台のところに席を移して最後まで食べました。

給食終了後、子どもたちは廊下側にイスに座って並び、歯磨きの時間です。子どもが1人「はみがき先生」になり、イスの上に立ちます。保育士が横に立ち見守る中、「はみがき先生」は、みんなのお手本として丁寧に時間をかけて、誇らしげに歯磨きをしていました。それが終わると、保育士が全員の仕上げ磨きを順番にしていました。

5歳児クラス（いざよいのつき組）

朝の会で、保育士が「今日は何を食べてきましたか？」と子どもたちに聞くと、「パンに牛乳。」「リンゴです。」などと、子どもたちは順に朝食メニューを披露していきます。どの子どもも、主食、主菜、副菜をきちんと食べている様子です。

さらに、保育士が「緑レンジャー食べた人？」と聞くと、子どもたちは、ほうれん草、キュウリなどと答えていきます。続いて、黄レンジャー、赤レンジャーと聞きますが、どれも正しい答えが返ってきます。

その後、手話付きの「朝の歌」「ロリポップの歌」を続けて大きな声で、元気に歌いました。最後にお楽しみ会で歌う予定の「ドレミの歌」を振り付け付きで合唱し終わると、「来週から英語でやってみる？できるかな？」と子どもたちと保育士が話し合っています。

朝の会の後は、保育士が紙コップと折り紙を用意して、翌日焼く予定の、勤労感謝の日のクッキー用の入れ物を作る事を説明します。まず、折り紙を16分割に折りたたみ、折り線通りにハサミで切って、紙コップに貼る飾りを作ります。

子どもたちが、それぞれ好みのデザインで貼り、保育士の所へ持って行くと、保育士は糊がまんべんなくついているか確認して、一つずつ感想を聞きながら預かり、棚の上に伏せていきます。

その後のお昼までの時間は、子どもたちの希望を聞き、新聞紙や広告を使った製作活動をする子ども、牛乳パックからパルプを作り、紙すきで葉書を作る子ども、絵本を読む子どもなど、自由に遊んでいました。

まとめ

子どものペースに併せ、保育士はプログラムを柔軟に対応し、子どもたちがのびのびと自由に過ごしている様子が見られました。

保育士は、毎日の絵本の読み聞かせや紙芝居の内容に、その日の散歩の内容や給食の食材に繋がるようなものを選んだり、近々予定されている行事の内容に合わせて製作活動を行ったり、保育内容の連続性に配慮しています。製作活動では、自分の思い通りのものが上手くできあがって、成果に満足している子どもたちの様子が見られました。

また、子どもたちは自分のクラスだけでなく異年齢のクラスへも自由に行き来して、ままごとコーナーにあるおもちゃや、絵本棚のたくさんの本の中から、自由に選んで取り出し、楽しんでいます。

第三者評価 事業者コメント

0歳児クラス反省

- ・評価に関してはその根拠が納得できることばかりで、改善できるところは、職員全体で考え対処していきたい。
- ・地域交流に関してもっと力をつけていきたい。より多くの方々に情報が発信できるよう、具体的内容も計画を立てていきたい。
- ・保護者アンケートによる「不満」は、具体的な内容が書いてあると、園として改善しやすい。
- ・保育園にあまり関心のない保護者の方々への働きかけが大切だと思った。
- ・園全体を見直す、いい機会だった。

1歳児クラス反省

- ・保育内容では、保護者や近隣の方々の理解が得られるよう、お便り等を活用して、園の思いをより多くの方に知って頂き、理解を得られるようにしたい。
- ・年間指導計画を基に、しっかりと話し合って保育をしていたため、保育観察の時も落ち着いて保育をすることができ、そのことが自信につながった。また、ありのままの保育を見て頂いた上で、的確な評価をいただけてよかった。今後も職員間の話し合いをしっかりと行い、一人ひとりを大切にしたい保育を続けていきたい。

2歳児クラス反省

- ・自分達の保育内容を見直すことができた。
- ・運営面では知らないことも多かったので、話し合いの中で理解できてよかった。
- ・評価が低かったところは、日ごろから自分達が課題だと思っているところだったので、その課題を具体的に見つめ直すいい機会だった。
- ・保育室の特性上（オープン保育室）設問が実際の保育とかみ合わないことがあり、回答に困った。

幼児クラス反省

- ・日ごろ、力を入れて取り組んでいる活動（保育内容や子どもとの関わり、遊び）や職員間の連携の良さなどをよく見ていただけて良かった。
- ・今回の自己評価は思っていたよりも大変な作業であったが、自分の保育観を見つめ直し、他の保育士と意見をぶつけ相互理解を図ることにより、さらに内容の濃い保育を作りだすことができると思う。
- ・自分の保育観・園の方針などを改めて考えるよい機会となった。
- ・保育以外のこと（特に運営面）も知ることができ、今後も保育園全体の理解を深めていきたい。
- ・評価が低かった項目については、園全体で考えていきたい。また、評価が高い項目についても、まだ改善の余地があることが分かり、さらなる保育の向上を目指そうという思いが強くなった。
- ・園で力を入れていることでも、保護者の方に伝わっていなかったり、満足していただけていなかったりすることに驚いた。さらに積極的に伝えていくことが大切だと思った。

総評

評価を受ける前は不安ばかりが大きく、マイナスに捉えてしまったこともあったが、園全体で1つの問題を徹底的に話し合うことで、励まし合ったり、逆に新たな問題が提起されたり、「保育」という仕事の奥深さを改めて感じる事ができた。開園5年目という節目の年で受審することができ、職員の絆も一層深まったように思う。しかし、評価を頂いたことで終わりではなく、ここからが本当の第三者評価の始まりだと考えている。決して現状に甘んじることなく、今回の結果を受け、利用者にとっても、地域の方にとっても、職員にとっても...みんなにとってよりよい保育園・楽しい保育園になるよう、これからも切磋琢磨し合いながら、私たちが目指す「優しい保育」を実践していきたい。

平成22年1月19日
ろりぽっぴん横浜 職員一同

～ 評価結果は、下記のウェブサイトからも見ることができます ～

市民セクターよこはまの第三者評価のページ

<http://www.shimin-sector.jp/hyouka/>

横浜市(健康福祉局)の福祉サービス第三者評価のページ

<http://cgi.city.yokohama.jp/kenkou/jigyousyajoho/hyoukaall.cgi>

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構のページ

<http://www.k-daisansyahyouka.org/>

特定非営利活動法人



特定非営利活動法人

市民セクターよこはま 評価・改善事業ユニット

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第4号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第4号

〒231-0013 横浜市中区住吉町二丁目 26 番地 洋服会館 2 階

TEL : 045-222-6501

FAX : 045-222-6502

<http://www.shimin-sector.jp>
